

「IVR マニュアル」

打田日出夫
山田 龍作 監修
栗林 幸夫
中村 健治
廣田 省三
吉岡 哲也 編集

福岡大学教授・放射線医学/日本血管造影 IVR 学会理事長

岡 崎 正 敏

臨床の現場で interventional radiology (以下 IVR) は、重要な近代医療部門として内外で認知されるところまで来ている。

本邦における全国レベルでの IVR 勉強会は、1982 年日本血管造影 IVR 研究会発足以来、1995 年学会と移行し、20 年が経過している。

20 年前から IVR 研究会・学会の際、最先端の IVR、症例数、成績、適応、技術、新しい device、基礎実験、術前・術中・術後管理などの発表、討論の中心となったのは関西の IVRist たちであった。IVR 学会関西地方会の延長が、全国の IVR 学会であるというような感じを持つ人も少なくなかった。本書、「IVR マニュアル」の監修者である打田日出夫 IVR 学会前理事長、山田龍作前理事のお二方のスーパーマン的リーダーシップによるところ大である。

本書は、この 20 年数来の本邦、特に関西地区の IVR 経験の集大成ともいえるプラクティカルな IVR

マニュアルである。本書の特徴について以下箇条書きに述べさせてもらうこととする。

① 出身母体の異なる編集者お四方(栗林幸夫、中村健治、廣田省三、吉岡哲也の各氏)の忌憚のない意見交換による執筆者の選択や編集が内容の向上に最大の貢献をしたものと考えられる。出身大学や医局講座の壁を越えた従来にないマニュアルと言える。

② 執筆者陣は大御所から新進気鋭の関西地区若手医師まで多岐にわたっているが、適材適所の人選で、臨床の現場に即した IVR 全域を網羅したマニュアルである。

③ 非常に簡潔な文章とわかりやすいシェーマとが相まって、IVR 現場でマニュアルを参考にしながら IVR を施行する機会も多いものと考えられる。

④ IVR 手技を熟練して初めてわかる解剖や手技のシェーマが適材適所にちりばめられているのも読者の

心を和ませ、IVR 意欲をかきたてるものと言えよう。

⑤ IVR がチームプレイであり、医師・放射線技師・看護師、三位一体の重要性も考慮した新しい企画と言える。コメディカルの方々にも大変勉強になるマニュアルである。

⑥ 現在 IVR に直接従事されていない医療従事者にぜひ読んでいただきたい書物である。カンファレンスやインフォームド・コンセントを得る際、きわめて利用価値のある書物と考える。

最後に、このような臨床の現場で有用なマニュアルを執筆して下さった IVRist に感謝するとともに、次は日本全国レベルでのマニュアル作制に向かって、皆で努力できる態勢を作りたいものである。

● A5 頁 348 2002 定価(本体 5,800 円+税)

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)